

令和4年度 FD 実施計画書・報告書

令和5年4月現在

I 学部学科・研究科名

短期大学部 食物栄養学科

II-1 実施計画①【概要】

II-2 実施報告①【概要】（年度末記入）

取組N°	A FD センター重点項目	FD2021 取組項目	A FD センター重点項目 達成内容
1	DP 達成度評価の現状と課題抽出・計画策定 ・ DP ルーブリックの策定 ・ DP ルーブリックに関するアセスメントプランの検討	I-1-(1)	令和3年度に抽出された課題を基に DP ルーブリック案を作成し、年4回のFD研修会及び毎月の学科会議において、内容を精査し完成させた。カリキュラムマップを新たに作成し、UNIPAにてレーダーチャート化して可視化することで、DP ルーブリックとの整合性の検証を行った。また、DP 達成度の可視化に関連し、3ポリシー、アセスメントプランの見直しを行った。
2	授業ルーブリック・課題ルーブリックの推進 ・ 各学科におけるルーブリック導入率（授業ルーブリック・課題ルーブリック）の向上 ・ ルーブリック共通フォーマットを授業担当者へ周知	I-2-(1)	食物栄養学科はルーブリック導入に積極的に取り組んでおり、令和元年度に専任教員全員の導入が完了しており、共通のフォーマットの共有も完了している。専任教員全員授業ルーブリック及び課題ルーブリックの導入が完了し、学科の全科目においても、導入率73%となった。
3	Society 5.0の到来に備えたDP/CPの見直し ・ 数理・データサイエンス・AIに関連する科目等のカリキュラム化	I-1-(4)	数理・データサイエンス関連科目を新DP内の「社会人としての基礎的な教養科目」として関連科目を当て、カリキュラムマップにおいて主関与・副関与を振り分けた。
4	「成績評価ガイドライン(仮)」のポリシー策定 ・ 「成績評価ガイドライン」に基づく各学科・研究科の実施要領の策定	I-2-(2)	成績評価ガイドラインにおいて「B」を到達目標基準として捉えることを共有し、評価の文言などの修正を行った。研修会で前期・後期の各授業の成績分布を公開し、情報共有を図った。12月の学科FD研修会において食物栄養学科成績評価ガイドライン実施要領が策定された。
5	各学科・研究科内FD研修会と情報共有の場の推進	I-2-(3)	学科FD研修会（助手含む）を年4回開催し、15テーマについて報告・意見交換を行った。毎月の学科会議においても、FD進捗状況報告、検討を行った。
取組N°	B その他取り組み項目		B その他取り組み項目 達成内容
6	オンライン授業と対面授業の両立による教育効果の検証および改善 ① ICTを活用したオンライン授業と対面授業の両立による教育の推進と効果検証		① 全教員が対面授業におけるWEBコンテンツの活用方法について現状報告を行った。予習・復習の為の授業資料事前・事後配信は全教員で取り組まれており、授業アンケート結果においても評価が高く、教育効果の高さが窺えた。

	② 実践力ある栄養士養成のためのカリキュラム構築（DP 見直しおよび授業科目・教育課程の再編成） ③ 短期大学部全体での編入学支援の強化に加え、学科における個別支援のさらなる強化	② 「4 号館食堂運営」を令和 5 年度前期・後期の授業内に取り入れ、実践力を身に付けた人材育成カリキュラムを計画した。 ③ 学科教員全体で学科独自の取り組みを強化した。
7	社会・地域貢献活動の強化と学生の参画によるキャリア教育の推進 -学生参画による地域貢献活動の実施-	学生参画で以下の取り組みを行った。 ①包括連携協定を締結している柳川市との産学官連携による食開発 ②福岡県水産海洋技術センターとの産学官連携による、未利用食材の流通促進 ③カゴメ株式会社主催「オムライスタジアム 2023」開催サポート ④医食同源生薬研究財団との共同研究「保育所給食の質が新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ等の感染状況に及ぼす影響について」 ⑤S0ELU・株式会社ビッグコマースと協同販売のオリジナルの雑穀米「わたしの雑穀 28」販売強化
8	卒業生を対象としたオンラインによるリカレント教育システムの構築および栄養士ブランド校イメージの浸透と情報発信 ① 「管理栄養士国家試験受験準備講習会」のオンライン講座の質向上 ② 「食物栄養学科卒業生専用サイト」の開設と導入後の効果検証 ③ 付属幼稚園・保育園との共同による食に関する情報配信整備	①「管理栄養士国家試験受験準備講習会」にて新たに対面受験・自宅受験併用の模擬試験の実施を試みた。また、受講者数は 30 名となり、KPI である前年度比 20%増を達成した。 ②昨年度の課題を基に、公式 LINE アカウントを立ち上げ、より情報発信しやすい体制を整えた。 ③付属幼稚園児の生活習慣(食生活)に関するアンケートを実施し、保護者支援の為、食生活の改善点を抽出した。また、栄養教育媒体作成、ホームページによるレシピ配信を行った。

Ⅲ-1 実施計画②【詳細(実施事項・内容、実施組織、評価項目等)】

Ⅲ-2 実施報告②【詳細(実施事項・内容、実施組織、評価項目等)】 (年度末記入)

3 / 6

取組 No.	予定時期	内容	実施日	達成内容(未達の場合は理由を記載)
1	4 月	DP ルーブリックの策定 ・カリキュラムツリーの検討	4 月 7 日	DP ルーブリック策定に向け、カリキュラムツリーの検討を行い、DP との整合性よりも学生が分かりやすい形式にすることを優先して調整を行った。
1	5 月	DP ルーブリックの策定 ・カリキュラムマップの検討	5 月 12 日	カリキュラムマップのたたき台を作成し、各授業担当者で確認後、意見交換を行った。
1	6 月	DP ルーブリックの策定 ・DP ルーブリック妥当性の検証	6 月 1 日	DP ルーブリックの妥当性の検証方法を協議し、レーダーチャート等で可視化する方法を検討することとなった。
1	7 月	DP ルーブリックに関するアセスメントプランの検討	7 月 7 日	DP 達成度の可視化に関連し、3 ポリシー、アセスメントプランの見直しを行った。
3		Society 5.0 の到来に備えた DP/CP の見直し ・数理・データサイエンス・AI に関連する科目等のカリキュラム化		数理・データサイエンス関連科目を新 DP 内の「社会人としての基礎的な教養科目」として情報処理系の関連科目を当て、カリキュラムマップにおいて主関与・副関与を振り分けた。
2		授業ルーブリック・課題ルーブリックの推進 ・各学科におけるルーブリック導入率(授業ルーブリック・課題ルーブリック)の向上 ・ルーブリック共通フォーマットを授業担当者へ周知		食物栄養学科は平成 30 年度よりルーブリック導入に積極的に取り組んでおり、令和元年度に専任教員全員の導入が完了しており、共通のフォーマットの共有も完了している。専任教員全員授業ルーブリック及び課題ルーブリックの導入が完了しており、評価方法などの情報共有を行った。学科の全科目において導入率 73%であり、大学としての目標値に対して、達成率は 183%となった。
1	8 月	DP ルーブリックの策定 ・カリキュラムマップ、カリキュラムツリーの作成	8 月 4 日	5 月の検討会において意見交換を行ったカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを修正し、再度各授業担当者で確認を行った。
1	9 月	DP ルーブリックの策定 ・DP ルーブリック妥当性の検証	9 月 1 日	在学生の成績用いて、DP 達成度の可視化を試みた。UNIPA のシステムに新 DP を組み込んで、レーダーチャート式で学生が自身の DP 到達度を確認できるようにした。各 DP で配置された科目数が異なるため、レーダーチャートの最大値に差が出るのが課題として挙げられた。

6	10 月	オンライン授業と対面授業の両立による教育効果の検証および改善 – ICT を活用したオンライン授業と対面授業の両立による教育の推進と効果検証 – ① ICT を活用したオンライン授業と対面授業の両立による教育の推進と効果検証 ② 実践力ある栄養士養成のためのカリキュラム構築(DP 見直しおよび授業科目・教育課程の再編成) ③ 短期大学部全体での編入学支援の強化に加え、学科における個別支援のさらなる強化	10 月 6 日	①全教員が対面授業における WEB コンテンツの活用方法について現状報告を行った。予習・復習の為の授業資料事前・事後配信は全教員で取り組まれており、授業アンケート結果においても評価が高く、教育効果の高さが窺えた。 ②「4 号館食堂運営」を令和 5 年度前期・後期の授業内に取り入れ、コンポストの実施によるフードサイクリング事業、企業との連携強化など、より実践力を身に付けた人材育成カリキュラムを計画した。 ③従来の学科独自の取り組みに加え、短期大学部編入学支援委員会との連携を強化し、栄養士系以外の編入支援の強化に取り組み、県外の難関大学への合格者を輩出した。
6		令和 4 年度前期授業結果公表と授業改善		前期の授業アンケート結果について全教員より報告し、共有した。教材使用についての結果に焦点を置き、ICT などを活用した教材の導入率は専任教員で 100%であり、各科目学生からの評価は高かった。
1		DP ルーブリックの策定 ・DP ルーブリックの完成		ワーキンググループより、DP、DP ルーブリック、カリキュラムマップが提示され、承認され完成した。次年度は DP に合わせたカリキュラムの見直しが課題である。
4	12 月	「成績評価ガイドライン(仮)」のポリシー策定 ・「成績評価ガイドライン」に基づく食物栄養学科の実施要領の検討	12 月 1 日	学科 FD センター委員より、他大学の実施例を含めた、成績評価ガイドライン作成手順のレクチャーがあり、意見交換を行った。科目レベル、組織レベル、機関レベルでの点検の必要性など検討した。

8		卒業生を対象としたオンラインによるリカレント教育システムの構築および栄養士ブランド校イメージの浸透と情報発信		①「管理栄養士国家試験受験準備講習会」にて新たに対面受験・自宅受験併用の模擬試験を実施し、対面受験 5 名、自宅受験 15 名が参加した。また、受講者数は 30 名となり、KPI である前年度比 20%増を達成した。 ②令和 3 年度卒業生向けにコミュニケーションツール「Slack」を導入したが、運用に支障があり、令和 4 年度卒業生より公式 LINE アカウントを立ち上げ、より情報発信しやすい体制を構築した。 ③付属幼稚園児の生活習慣(食生活)に関するアンケートを実施し、保護者支援の為、食生活の改善点を抽出した。喫食量・口腔機能調査を行い幼児が成長していく上での食事量・咀嚼能力の変化を把握した。運動能力測定調査では、幼児が成長していく上での運動能力の変化を把握できた。活動量測定調査では、幼児の身体活動量が高い曜日を特定し、エネルギー消費量に見合った食事提供を行うことでよりよい発育・発達に繋げる予定である。また、栄養教育媒体作成、ホームページによるレシピ配信を行った。
6	2 月	令和 4 年度後期授業結果公表と授業改善	3 月 2 日	後期の授業アンケート結果について全教員より報告し、共有した。教材使用についての結果に焦点を置き、ICT などを活用した教材の導入率は専任教員で 100%であり、各科目学生からの評価は高かった。また、次年度のコロナ規制緩和を受けた、授業実施形態の情報共有を行った。

		社会・地域貢献活動の強化と学生の参画によるキャリア教育の推進 ― 学生参画による地域貢献活動の実施 ―	①包括連携協定を締結している柳川市との共同研究「柳川の食材を活かした食開発」に取り組み、学生による現地視察、柳川の食材を用いたメニュー開発を行った。 ②福岡県水産海洋技術センターと共同で、市場に出回っていない貝「シオフキ」の付加価値向上及び一般流通促進を目指したメニュー開発に学生参画で取り組んだ。 ③カゴメ株式会社主催「オムライススタジアム 2023」が本学で開催され、サポートスタッフとして食物栄養学科 1 年生が 6 名参加した。 ④医食同源生薬研究財団との共同研究「保育所給食の質が新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ等の感染状況に及ぼす影響について」にて、福岡市認可保育園の 1 年間の給食実施状況を把握するために 6 月・9 月・12 月・2 月の各 1 週間、計 24 日分の給食内容について栄養計算を実施し、食物栄養学科学生 17 名が参画した。 ⑤SOELU・株式会社ビッグコマースと協同販売のオリジナルの雑穀米「わたしの雑穀 28」販売強化を目指したレシピ開発に取り組みに食物栄養学科学生 6 名が参加し、企業商品紹介 HP に大学名等とともに掲載された。
--	--	--	---